

開催日：3月16～17日 開催場所：丸和オートランド那須 格式：国内
主催：FSC [クラブ登録No.加盟13061]、M.S.C.うめぐみ [クラブ登録No.加盟10024]

フォト／関根健司、JAF スポーツ編集部 レポート／山中知之、JAF スポーツ編集部

昨年からGK5フィットに乗り換えてPN1に挑戦してきた青森のベテラン・工藤清美選手。セッティング変更が奏功して、GK5フィットに全日本ダート初勝利をもたらした。



PN1 工藤清美選手、GK5フィット全日本ダート初勝利！

丸和オートランド那須で開幕した全日本ダートトライアル選手権。屈指の高速コースを攻略するべく10クラス合計153台がパドックを埋めた。

大会直前の金曜には雪が降り天候が心配されたが、本番当日は最後まで天気は崩れることなくドライコンディションでのバトルとなった。

コースレイアウトは昨年同様の設定で、前半が低中速コーナーが組み合わされたテクニカル、後半は高速コーナーが中心となっていた。

会場にカウントダウンのアナウンスが響くなか、PN1から第1ヒートの攻撃が始まった。

前半ゼッケンの布施浩之選手が1分53秒台

に入れてきたが、後続はこのタイムを破れない。残り2台で青森の名手・工藤清美選手がベスト更新。暫定トップで第2ヒートに折り返した。

第2ヒートは仕切り直して、続々と自己ベストとトップタイムが塗り替えられていった。

2年前のこの丸和ラウンドを制している鈴木義則選手が1分49秒台に突入したが、第1ヒート首位の工藤選手がコンマ147秒かわして再びトップに返り咲く。最終ゼッケンは丸和を地元とする児島泰選手だったが、児島選手は5番手に留まり、工藤選手が開幕戦を制した。

「アンダー対策でLSDを弱めにセッティングしてきたのが良かったかもしれないですね。ほ

んどシェイクダウン状態なので、もう少し煮詰めたのかな」と話したものの、GK5フィットに全日本ダート初勝利をもたらした。

今季から後輪駆動車がPN3に独立してFF勢の戦いとなったPN2は、ヴィッツGRMNを持ち込んだ川島秀樹選手に注目が集まったが2番手止まり。優勝は昨年はチャンピオンにあと一歩届かなかった宝田ケンシロー選手で、2本ともトップタイムを並べた完全勝利。意外なことに、全日本丸和初勝利のオマケ付きだ。

PN3は後輪駆動車(FR)のみで争われる新設クラス。前日の公開練習から好調だった竹本幸広選手がリードするも、第2ヒートはスピンで

PN1 / 1.第2ヒートのパルクフェルメは関東のドライバーが席卷。GK5フィット使いの原靖彦選手(左)が叩き出した暫定ベストを、一昨年の覇者・鈴木義則選手(中)が更新し、昨年の覇者・若林賢太郎選手(右)が2番手タイムを計測した。そこでGK5フィット使いの工藤清美選手が逆転。そのまま逃げ切って優勝し、PN1初勝利、GK5フィットの全日本ダート初勝利をさらった。2.鈴木義則選手が2位。3.若林賢太郎選手が3位。4.原靖彦選手が4位。5.児島泰選手が5位。PN2 / 6.PN2表彰台。圧勝した宝田ケンシロー選手は何と全日本丸和初勝利。7.2位はヴィッツGRMNの川島秀樹選手。8.3位は河石潤選手。



下位に沈む。結局、竹本選手のチームメイトで元D1GPドライバーの熊久保重選手が、参戦4年目で全日本ダートラ初優勝を獲得した。

N1は古沢和夫選手が2位以下に3秒近い大差をつけて圧勝。N2は第1ヒートのゴール手前でミスをした矢本裕之選手だったが、第2ヒートではしっかり逆転して勝利をゲットした。

SA1は稲葉幸嗣選手とチャンピオン小山健一選手の因縁の戦い。小山選手が2本ともトップで貫禄の優勝を飾った。SA2は、昨年は勝ちに恵まれなかった荒井信介選手が逆転勝利した。

SC1は第1ヒートトップの山崎迅人選手が、第2ヒートは車両トラブルでタイムが伸びず、その間隙をついた坂田一也選手が優勝を飾った。

SC2は丸和のドライ走りを熟知する梶岡悟選手が、唯一の1分39秒台を叩き出して完勝した。

SA2チャンピオンの鎌田卓麻が移行してきた注目のD部門では、丸和の“ヌシ”的な存在である亀山晃選手が、第1ヒートのタイムで逃げ切って優勝。昨年から導入したショートホイールベースのエゴXに初勝利をもたらした。



PN3 / 9. 新設PN3は熊久保重選手(中)が逆転勝利。「本当は竹本(幸広選手)の優勝をサポートするために出たのに自分が勝っちゃうとは(笑)。でも、嬉しいね!」。2位は蒔田亮子選手とダブルエントリーした佐藤秀昭選手(左)、3位は岡翔太選手(右)。10. 佐藤秀昭選手は久々の後輪駆動ドライブで2位。11.3位の岡翔太選手は後輪駆動では初参戦ながら、デビュー戦で3位表彰台を獲得。D / 12. 亀山晃選手がついにショートホイールベースのエゴXで優勝。13.D車両ミラージュを駆る炭山義昭選手とのダブルエントリーで全日本ダートラに復活した炭山裕矢選手がコンマ4秒差の2位。14. 今年からトラストカラーに戻った谷田川敏幸選手は3位に留まった。



N1 / 15. 今年は往年のラリーアートカラーのマイカーでの参戦となった古沢和夫選手が地元の意地を見せて後続に約3秒引き離して優勝。16. 希少なパルサー VZ-R 使いの北原栄一選手が2位。17. 第1ヒートでクラッシュを喫した濱口雅昭選手。古沢選手らの協力で修復して挑んだ第2ヒートで見事に3位を獲得。N2 / 18. 第1ヒートの2番手タイムを更新したものの2位に終わった北條倫史選手。19. 第1ヒートはトップタイムをマークした信田雅晴選手

が3位に。20. 第2ヒートで大逆転優勝となったのは矢本裕之選手。SA1 / 21.SA1表彰台。優勝は小山健一選手。ディフェンディングチャンピオンの威厳を見せて2ヒートともベストタイムをマークした。22. 第1ヒートはコンマ差の2番手だった稲葉幸嗣選手は、第2ヒートで暫定ベストをもぎ取ったものの、永遠のライバル・小山選手に逆転されて2位に終わった。23.3位はダートラ業界期待の北陸の新星・浦上真選手。



SA2 / 24. 予想外のグリップ感に翻弄された第2ヒート。「いやー滑りやすくて危なかったね!」と額を拭う荒井信介選手が久々の優勝。25. 約コンマ4秒差の2位は北村和浩選手。26.2年ぶりの3位表彰台獲得は川村永二選手。SC1 / 27. 第1ヒートは前半でストップした佐藤史彦選手が第2ヒートで2位表彰台。28. 第2ヒートは車両トラブルでストップした山崎迅人選手が3位に残る。29. 後続を1秒以上引き離したブッチぎりの優勝はマツダスピード

アクセラを駆る坂田一也選手。SC2 / 30.SC2表彰台。優勝は第1ヒートから後続を大きく引き離していた梶岡悟選手。第2ヒートはクラス唯一の1分39秒台に入れて2ヒートともベストの完全勝利。昨年後半からSC2にスイッチした大西康弘選手は、3戦連続の5位。31. 今年からSC2にスイッチした亀田幸弘選手。暫定仕様のニューマン・インブレッサスポーツで2位を獲得。32. 昨年の第6戦以来の表彰台獲得は3位の吉村修選手。